

平成27年度入学者選抜学力検査問題（推薦入試Ⅰ）

「小論文（地域学部地域政策学科）」出題意図

課題文は、地域を大きく再編し広域化させる結果をもたらした市町村合併について防災と関連付けながら着目し、災害対応の側面から市町村合併について批判的に論じたものである。合併後における地域づくりにせよ、災害に強いまちづくりにせよ、今日的状況の中で避けて通ることのできない地域の課題と言える。そうした具体的状況を題材として、地域において「何が課題であるか」を的確に認識する能力を見るとともに、地域の諸課題に対して能動的に関わっていかうとする意欲の高さや、論理的思考力、発想力、表現力など、地域政策学科で学んでいくうえでの適性を総合的に測ることとした。

【問1】

課題文の読解力を見るとともに、宮城県石巻市の震災対応という「具体的事実」が筆者の見解にどのように関連付けられているかを簡潔にまとめる能力を測る。すなわち、石巻市の震災対応をめぐる事実関係を単に整理しただけでは不十分である。行政対応力の低下、政治的発信力の低下、自己決定力の喪失、（決定に至るまでの）時間的なロス、など、文中に散りばめられているキーワードを拾い上げながら、筆者の見解として整理できるかどうか採点のポイントとなる。

【問2】

課題文はあくまでも、東日本大震災という「非常時」の対応について論じたものである。ただ、例えば復興段階におけるまちづくりに関して言えば、文中で（くらしの復興）（まちの復興）として挙げられている、生活基盤や市街地の再生といった課題は、平時におけるまちづくり、衰退しつつある地域の再生・活性化などのテーマにも応用可能と言える。そのような点でまさに、受験生の応用力が問われる設問となる。自らのアイディアについて、合併という側面から述べるか、防災という側面から述べるか、あるいは両面に触れるかは各自の自由であるが、いずれにせよ、地域の諸課題に対処していくうえでの能動性や、方策の具体性、また論理的思考力の高さが読み取れるものであれば、概ね高評価とする。